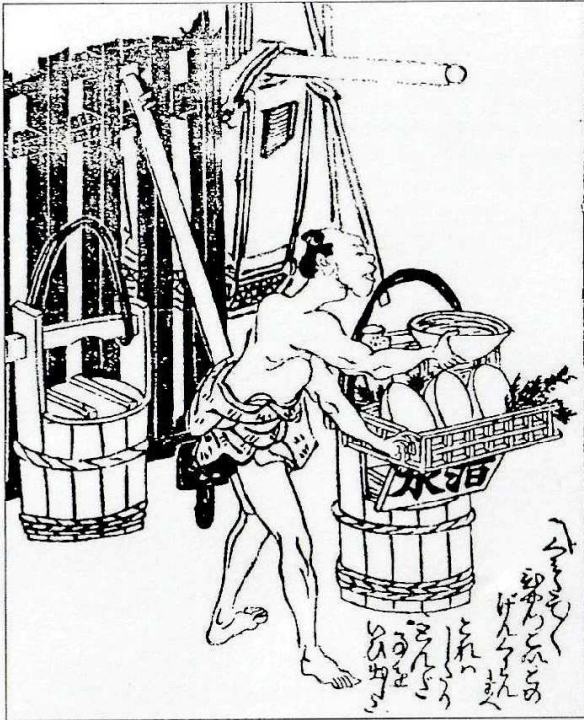
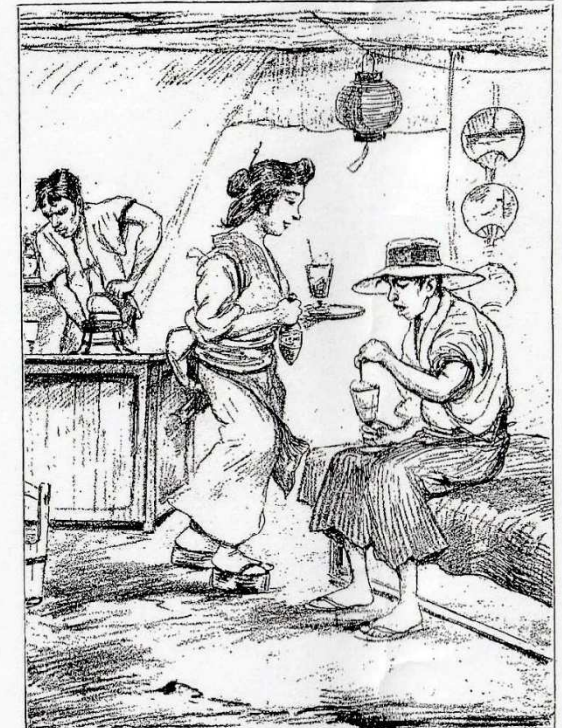


風涼しく…夏は魅惑の顔をする



冷水売り 夏の暑い盛りに歩いてきたので、喉が乾き冷水を求める。冷たい湧き水を桶に汲んで運びながら市中を売り歩き、ドンブリに1杯が4文だった。

「馬鹿功」寛政5年(1793)



— Le marchand de glace. —

雑誌『日本人の生活』〔第一次〕(明治23年刊)



馬車道にはアイスクリーム発祥を記念して、「太陽の母子」像が建てられており、市民に親しまれています。「横浜往来」より

呼び歩く冷水売り

「氷水あがらんか、ひやっこい、汲みたてあがらんか、ひやっこい」と呼び歩いた。

「四時交加」

寛政10年(1798)



↑
浮世絵に魅せられ明治15年に来日。イタリア人ビゴー。18年間にわたり日本の風刺画を各誌に発表。働く女性は束髪でない。青年はアムペラという夏帽子。